次世代の普通作経営を担う女性農業者の育成

県南農林事務所つくば地域農業改良普及センター

つくば地域は、農地の６割を水田が占める稲作地帯ですが、担い手の減少や主食用米の需要減少、米価の低迷が続くなか、将来的に地域農業を担う、儲かる水田農業経営体の育成が必要となっています。
平成 30 年から実施の大規模普通作経営体全戸巡回では、複数の女性の経営参画が確認され、育苗や水管理、雑草防除を中心とした基本技術の習得など共通の課題がみられたため、令和３年から「女性のための稲作基礎セミナー」を開講し、次世代を担う女性稲作経営者の育成に取り組んでいます。

稲作セミナーによる女性農業者の育成

令和３年から、つくば地域で普通作経営に参画する女性農業者への支援を目的に、「女性のための稲作基礎セミナー」を開講しています。
セミナーでは、普及指導員による座学や体験型学習、外部の有識者による優良事例の紹介、管内の大規模普通作経営体での視察研修などを通じて、稲作経営の基礎知識からスマート農業の利活用、６次産業化まで幅広いテーマについて学習する機会を提供しています。
これまで、12回のセミナーを開催し、管内の女性農業者のべ61名が参加しました。

写真１
幼穂長測定による
出穂期予測

写真２　セミナー生の水田を視察

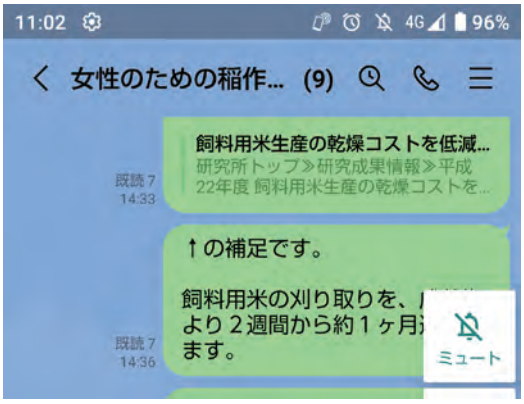

写真３　SNS（グループLINE）での情報共有

SNSを活用した情報共有・個別相談

女性農業者は普通作経営に加え、家事や育児など家庭でも多くの役割を担っています。そこで、セミナー生との連絡手段としてSNS（LINE）を活用しています。グループLINEは、セミナーの日程や講座の内容伝達の他、栽培技術や農業施策等に関する情報共有の場となっています。また、個々のセミナー生とは個人のLINEを通じて個別相談にも対応しています。

地域で活躍する女性リーダーの育成

セミナー生のうち２名が、大規模経営体での視察を機に自社の経営を見直し、スマート農業の新規導入や制度の活用など新たな取り組みにつなげています。また、地域の組織の委員や講習会への参画など、積極的に活動範囲を広げています。
さらに、いばらき農業アカデミー「女性農業経営者育成講座」に参加し、経営発展モデル（経営計画）を作成することで、所得向上に向けた新たな挑戦が始まっています。

写真４・５　大規模経営体視察